

つどいの広場「ふれあい」利用者と市長との「“本気”で語ろう会」 会議録

団体名	つどいのひろば「ふれあい」利用者
日時	平成 29 年 5 月 11 日（木）11 時 10 分から正午まで
場所	串良ふれあいセンター 和室
参加者	つどいの広場「ふれあい」利用者 12 名
	市長、保健福祉部長、串良総合支所長、関係課長外

意見交換

テーマ：子育てにやさしいまち鹿屋を目指して ～子育て世代の保護者からの声～

- ・子育てをする上で大変なこと、困っていること
- ・子育てに関してあったら良いと思う施策について

市長：子どもを産み・育てやすい環境を創るということは、鹿屋市においても大きなテーマであると認識している。今までも色々なことを実施しており、中学生までの医療費の無償化や、保健相談センターでは子育て世代の支援センターを設立し、産前・産後のケアも実施している。このように色々な施策を実施しているが、お母様方にとってそれらは効果があるのかという点について、声を聴く機会が少ないのが現状である。本日は色々な生の声を聞かせて頂きたい。

今、生涯に女性が子どもを産む数は、全国平均で 1.4～1.5 人位であるのに対し、鹿屋市では約 2 人となっている。毎年鹿屋市で 1,100 人位の子どもが生まれ、子どもが多いまちであるのは間違いない。鹿屋市は比較的転勤族が多いため、人口の移動がかなり多いまちである。

意見：鹿児島市から転勤してきて、現在、初産の子がいるが、小児科も多いし買い物をする場所も多い。雨の日に濡れる駐車場ばかりであるが、比較的住みやすい街である。

市長：「子育て世帯の経済的負担の軽減をして欲しい。」とよく言われるが、我々行政の仕事は市民の皆さんから集めたお金を再配分するのが重要な任務である。子どもから高齢者まで色々な方がおり、課題が多いため、限りある予算をいかに分配するかが難しい問題である。

意見：一昨年 2 月に子ども（第 2 子）を産み、5 月から保育所の入所申込をしたが、1 年以上待機児童となった。今年 4 月も入所が出来なかった。現在は家で見ているが、4 月入所に関して第 2 次選考の文書が来たが、現住所は新川町であるにもかかわらず、空いているのは吾平か輝北か古江しかない状態であった。送迎を考えると近場しか保育所には行かせられない。結局、上の子だけ幼稚園に入れて下の子は自宅で育てている。なかなか働きたくても保育所が空いていないため働けない状況である。きょうだい枠というのが入所選考の時に優先されるとのことだが、それ以外にも優先する項目を考えて欲しい。

市長：保育園は市街地の人気がある所はすぐ一杯になってしまい、郊外の所だけが空きがある状態になると聞いている。郊外の所は定数を減らして、その分を人気のある所に回せばよいのではという考え方もあるが、子どもが同じところに集中してしまう可能性もある。

子育て支援課長：きょうだい別々の保育所に入ることが無いように、きょうだい枠を優先している。また、鹿屋市子ども・子育て支援事業計画（平成27年度～平成31年度の5カ年計画）に基づいて年々保育所の定員を増加させており、数字上では希望された方は皆どこかの園に入れる計算になる。実際には郊外の保育所の定員も含め市の保育園全体の定数で申込者数を見た場合での数値であるので、今後、子ども・子育て会議などの意見を踏まえながら、市街地での定数が増やせるよう努めてまいりたい。

意見：病院で支払いの際、病気の子どもがぐずるため、もたついてしまう。他県では支払わないで良いと聞くが何とかならないか。子どもを抱きながらお金を払い、調剤薬局等に連れて行くのも大変である。また、子どもを帝王切開で出産したが、鹿屋市には入院できる小児科が1箇所しかないと聞いた。もっと増やして欲しい。

市長：現在医療費は償還払い方式である。窓口で支払わないとモラルハザード（窓口で払わないため軽い病気でも診察を受ける患者が増えて重篤な患者が後回しになる）が発生する可能性がある。県において3～5歳の非課税世帯については、窓口で支払わずに済む方式を検討しているようである。国の制度設計も関係するため財源の面でも検討が必要である。産科医については、昨年民間の医療機関に一人赴任していただいた。子どもを産みやすい環境が整いつつあると思うが、重篤な患者が入院可能な小児科は少ないのが現状であり、産科・小児科の医療全体で考えていかなければならない。

意見：鹿児島市から転入してきた。医療費が無料となっており鹿屋市は子育てしやすいまちだというイメージがある。最近、肝付町の保育料無償化のニュースを聞いたので、それはうらやましいなと感じている。

市長：報道では肝付町の3歳児以上の保育料無償化は、予算が1億円程度かかると聞いている。鹿屋市の場合は試算では5億円以上必要という金額も出ており、恒久的な財源を確保しなければ継続は難しいと考える。保育料や医療費だけでなく小学校の給食費の問題等、無償化して欲しいという課題はたくさんある。鹿屋市においても所得に応じて保育料を段階的に設定するなど、きめ細やかな対応をしているところである。全ての子育てに係る経費を無償化するのは無理があるので、多子世帯や経済的に苦しい世帯を優先的に軽減策を講じるべきと考える。

意見：福岡から転入してきたが、雨が降ると子どもを遊ばせる場所が無いと感じる。もっと雨天時に子どもを遊ばせる場所が欲しい。

市長：雨の日に子どもが遊べる場所が欲しいという話は良く聞く。ここ（串良ふれあいセンター）も和室等が空いている時間があると思うので、公共施設の有効活用をしていけば、遊べる場所を確保できるのではないかと考える。色々な公共施設があるので、それらを活用し、遊べる場所が確保できないか、考えさせて欲しい。

意見：つどいの広場は3歳児までしか使えない。4歳児以降でも使える場所が欲しい。

保健福祉部長：つどいの広場は国の規定で対象児童が3歳児未満となっている。理由としては、生まれて間もない小さい子どもと、3歳児以降の子どもが同じ空間で遊ぶと危険であるということである。児童センターでは3歳児以降の子どもも遊べるので、そちらも利用して欲しい。3歳児以降の子どもが自由に遊べる場所の確保は、子育て支援の課題と考えている。

意見：土日につどいの広場を開けて欲しい。児童センターは小学生など大きな子どもが遊びに来るので、同じ場所で小さい子どもを遊ばせるのは不安である。

保健福祉部長：リナシティかのや（つどいの広場「りな」）や東地区学習センター（つどいの広場「ひよこ」）については、スタッフは不在だが土日でも利用できる。ちなみに、児童センターは土日でも利用できる。

意見：リナシティかのや（つどいの広場「りな」）は土日でも利用できるが、アドバイザーが居ないので不安である。

市長：土日にスタッフが不在であるつどいの広場の対応については、職員のローテーションを組むなどして対応を考えたい。

意見：里帰り出産を考えている場合に、鹿屋では対応出来る産婦人科が少ないと聞くので不安がある。

健康増進課：現在は産科医も増えているのでそのような不安は少なくなっている。リスクがある妊婦は鹿屋医療センターを紹介するなどしている。心配な点があれば保健相談センターに相談していただきたい。

意見：産婦人科での出産費用は一律なのか。病院によっては出産時にもらうお金では足りずに手出しが10数万円も必要な所があると聞く。

健康増進課：部屋の料金やサービスに係る部分で差があるのではないか。また、病院が使う様々な医薬品や資材のお金が違うために差があることも考えられる。何にいくらかかっているのか明細を貰われたら良いのではないか。

意見：買い物をする時に大きい施設が無いので鹿児島市等に行っている。そのような施設が鹿屋にも出来ればいいのと思う。

市長：私もそう思うが、本市への出店については、企業の考えに基づくものであり、難しいと考える。色々な商業施設はあるがショッピングモールの様な施設が出来る予定は今のところ無い。鹿屋市の人口は約10万3千人で、大隅全域では約24万人である。始良市のイオンなどは商圈として50万人とか100万人を想定して作っているのではないか。大隅半島では中々難しいのが現状だと思う。

市長：今日ここにお集まりの皆さんは鹿屋地区の方々ばかりで、串良地区の方はいないようだが、鹿屋地区の方が串良のつどいの広場を利用する理由を伺いたい。

意見：他のつどいの広場と比較すると、とても広いから。ひよこ（東地区学習センター）やひまわり（西原地区学習センター）は狭い。また、玄関に屋根があるため、雨の日に車から子どもを降ろすときに濡れないことも魅力である。

市長：雨の日にここの和室等を使えば遊ぶ場所になると思う。事前に利用予定を立てておけば実施可能だと思う。また、ここは鹿屋市住民以外の方も利用されているようであり、広域で相互に使えるようになればと思う。他の市町でこのような施設を利用されている方はいますか。

意見：鹿児島市の中町の「なかまっち」や与次郎の「りぼんかん」、始良市にも広い子どもが遊べる場所がある。

意見：肝付町の「ちゃいんどはうす」も良い。男の子などは鹿屋市の子育て施設では狭くて利用しづらい。人の赤ちゃんを踏んでしまう恐れがある。肝付町の「ちゃいんどはうす」は（利用者の年齢に応じて）1階と2階に分けてあるのでとても利用しやすい。

市長：現在、市立図書館の2階も適当なスペースがあるので、活用出来ないか検討中である。他の公共施設も子どもが遊ぶ場所として考えていきたいが、やはり場所の提供だけでなく、保育士等のスタッフが常駐した方が利用しやすいのか。

意見：スタッフに常駐していただいた方が、保護者がお手洗いにいく場合など子どもを見てもらえるので安心である。

市長総括：今日はいろいろ貴重な意見を伺うことが出来た。生涯に子どもを産む人数を増やしていただくために、行政は様々な形でこれからもバックアップさせて頂きたい。本日出された要望の中で、出来ることは前向きに検討して実施していきたいと思う。